

P16

小児歯科における子育て支援の試み（第1報）
～エジンバラ産後うつ病自己評価票の調査結果について～

○ 高瀬ルミ子、原田靖子、西田由起子、
旭爪伸二

（わかば小児歯科 宮崎市）

【目的】

近年、児童虐待が社会問題となっている。厚生労働省によると、平成22年度の児童相談所における児童虐待相談件数は東北の一部を除いても55152件と10年前の3倍強、20年前の50倍と増加の一途を辿り、過去最多を記録した。対策の1つとして、母親の心の問題を早期にキャッチし育児支援を行う事が大切とされている。そこで、当院では2歳以下の子どもを子育て中の母親を対象に、エジンバラ産後うつ病質問票（以下、EPDS）を用いて調査を行ったので報告する。

【対象と方法】

平成23年9月10日から10月14日の間に2歳以下の子どもを連れて来院された20代（25名）30代（96名）40代（6名）無記入（2名）の母親129名を対象にEPDSを用いて、調査を行った。本調査は0、1、2、3点の4件法の母親による自己記入式質問票で、結果は合計が30点満点で評価される。わが国では9点以上をうつ病としてスクリーニングしている。質問内容は下記のとおりである。

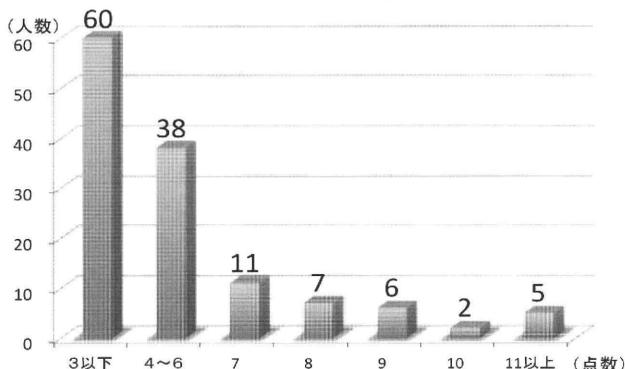
質問1：笑うことができたし、物事の面白い面もわかった 質問2：物事を楽しみにして待った 質問3：物事がうまくいかない時、自分を不必要に責めた 質問4：はっきりした理由もないのに不安になったり、心配したりした 質問5：はっきりした理由もないのに恐怖に襲われた 質問6：することがたくさんあって大変だった 質問7：不幸せな気分なので、眠りにくかった 質問8：悲しくなったり、惨めになったりした 質問9：不幸せな気分だったので、泣いていた 質問10：自分自身を傷つけるという考えが浮かんできた

【結果および考察】

質問1、質問2はうつ病の基本症状の1つを聞くもので、それぞれ7%、9%の母親がいつもと同様にできなかったと回答している。質問3～6は、うつ病ではなくても子育てに慣れおらず多忙なときなどに陽性点数をつけることがあるといわれている。質問3は「不必要に」がキーワードとなっており、自分を責めたことがあると回答した母親は73%いた。質問4は「理由もないのに」がキーワードで、不安になったことのある

母親が50%いた。うつ病の母親にはいろいろな恐怖感が理由もなく出現してくることがあり、質問5では27%がそのように感じていると回答した。質問6では集中力がなくなったり、判断できなくなる症状を聞いており、73%がそれに該当した。質問7の睡眠障害についての質問では、23%は眠れない日があったと答えた。質問8、9ではうつ病の基本症状の1つである抑うつ気分について聞いているが、それぞれ33%、20%の母親がありと回答した。質問10は特に重要な質問事項とされ、産後うつ病による自殺念慮、自殺企図の有無を確認するものであるが、6%の母親が考えたことがあると回答した。

エジンバラ産後うつ病質問票の評価



今回の調査の平均点は4.24点であった。表のとおり9点以上の母親は13人で、全体の10.08%であった。国内で実施された他調査では、9点以上の割合は10～15%であり、当院の調査でもほぼ同程度の結果が得られた。小児歯科に子どもを連れて来院されている母親の中にも、少なからず子育てや生活上の悩みを抱えスクリーニングの対象となる9点以上の人が含まれていることが示された。また、EPDSは産後6ヶ月未満の母親を対象とした調査が広く実施されているが、今回は産後1年以上経過する母親が過半数を占めているにもかかわらず、他調査とほぼ同様の結果となった。これらの結果から、母親の精神不安や育児ストレスを踏まえた対応が小児歯科でも求められていることが示された。

【文献】

- 1) 吉田敬子 他:育児支援のチームアプローチ
金剛出版 東京 2006.